

J B A

公益社団法人 日本吹奏楽指導者協会

..... ご 案 内



JAPANESE BAND DIRECTORS ASSOCIATION

公益社団法人 日本吹奏楽指導者協会（JBA）について

JBAは日本の吹奏楽指導者が集まって、吹奏楽の音楽的表現の豊かさと演奏技術の向上、及び吹奏楽界の発展を目指して活動している団体です。

また会員相互の研修と情報の交換、及び海外の指導者との交流をすすめ、同時に吹奏楽活動の場を国際的に広めるため努力しています。

会員には指揮者、作曲家、演奏家、評論家、学校教育関係者、楽団指導者、同運営者など600余人が加入しており、さまざまな分野で活躍しています。

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会 事務局

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-4 千修ビル内

TEL&FAX 03-5275-5618

E-mail info@jba-honbu.or.jp

日本の吹奏楽変遷とJBA

我が国の吹奏楽は、明治2年薩摩藩士31名が横浜で英国陸軍軍楽隊長ジョン・ウィリアム・フェントンの指導を受けて始まり、まもなく藩士たちを中心に、海軍そして陸軍の軍楽隊へと発展しました。

明治初期、西洋音楽は4つのルートから日本に導入されました。すなわち軍楽隊、唱歌教育、宮中の雅楽そしてキリスト教会であります。このうち軍楽隊と唱歌教育が主流となりましたが、とりわけ軍楽隊が早く導入され、日本の音楽黎明期に大きな役割を果たしました。

明治、大正期を通して西洋音楽は徐々に日本に定着し、昭和初期に至って中学校でも吹奏楽団を編成する学校が現われました。その後軍楽隊の全盛期を経て、戦後はスクールバンドが主流となり、全日本吹奏楽連盟主催の吹奏楽コンクールを機軸として昭和30年代には中学校で、40年代に入ると高等学校で大きく発展しました。

しかし昭和30年代後半に至って、外国の高度な演奏に触れたり、また優れた吹奏楽レコードを聴くに及んで、演奏技術の向上、合奏のバランスの見直し、あるいは表現力の

豊かさなどが求められるようになりました。

折しも昭和40年(1965年)11月、アメリカの作曲家ポール・ヨーダー氏と楽譜の出版会社社長ワルター・ヴォルクウィン氏が揃って日本の吹奏楽事情視察のため来日、日本もABA(アメリカ吹奏楽指導者協会)のように、作曲家や指導者が結束して将来の発展を図るべきだとJBAの設立を示唆しました。

日本の関係者は吹奏楽の一層の発展を図るためエキスパートの力を結集しようと起ちあがり、昭和42年(1967年)1月、日本吹奏楽指導者協会(JBA)を発足させました。以来JBAは、吹奏楽を通して青少年の音楽教育に力を尽くすとともに、社会教育、生涯学習の面で、また同時に次の世代の指導者の育成を図るためにさまざまな事業を展開してきました。そして平成12年(2000年)6月、JBAは社団法人(文部科学省所管)として認可され、更に同23年(2011年)8月、内閣総理大臣より公益社団法人として認定されました。以後公益法人として吹奏楽発展のために重要な役割を果たしています。

JBAの活動

JBAは吹奏楽指導者の資質の向上に努めるとともに、吹奏楽を通して音楽教育の振興を図り、同時に生涯学習の発展を目指して次のような事業を展開しています。そして会員は自分の知識と経験を生かして各分野で活躍しています。

●生涯学習・社会教育委員会

資格認定、吹奏楽ゼミナールに関する事業

●指揮法講習会委員会

指揮法講習会に関する事業

●吹奏楽楽曲開発委員会

JBA下谷賞、吹奏楽楽曲開発事業

●ソロコンテスト委員会

管打楽器ソロコンテストの企画と事業推進

●吹奏楽発祥の地記念碑保存委員会

日本での吹奏楽発祥の地(横浜市)における記念事業
(毎年体育の日)

●国際交流委員会

日米吹奏楽指導者会議(JBA-ABA会議)、アジア・パシフィック吹奏楽指導者会議(APBDA)、世界吹奏楽会議(WASBE)、海外公演する吹奏楽団の推薦

●広報・研究委員会

会報の発行、紀要(小論文集)発刊、ホームページ開設、その他演奏会の後援などの広報活動

JBA入会のご案内

1. 正会員になろうとする方(満20歳以上)は、JBA本部または居住地域の支部長から所定の入会申込書をお受け取りください。入会は随時受け付けております。ただし、5月1日以降にお送りいただきました入会申込書の入会手続きは、当該年度総会以降のお手続きとなりますので、予めご了承くださいませようお願いします。
2. 入会申込書に必要事項を記入して、支部長または本部にご郵送ください。(入会申込に際しては、JBA会員1名の推薦が必要です。)
3. 資格審査の結果、適格と承認された方には本部事務局よりご連絡いたします。
4. 入会通知を受け取った方は、期間内に所定の入会金と会費を納入してください。
5. 本部事務局より「JBA会員バッジ」を送付し、会員番号を通知します。(この会員番号は終身番号ですが、定款に定める会員資格喪失の条項に抵触しますと資格を失います。)
6. 正会員として認められた方には、翌年度の総会で承認状が授与されます。
7. 賛助会員として入会される場合は、本部事務局に直接ご連絡ください。

会員の種類及び会費等

	正 会 員	賛助会員
入 会 金	10,000円	なし
年 会 費	15,000円	50,000円

JBAの歩み

昭和41年	日本吹奏楽指導者協会設立準備会発足(4月)	昭和57年	第16回総会のときJBA社団法人化を目指すことを議決(大阪)
昭和42年	創立総会開催(1月、東京)	昭和58年	第1回吹奏楽ゼミナール開催
昭和43年	第2回総会のとき、米国より作曲家ポール・ヨーダー氏、及びアメリカン・ブラス・クインテット来日	昭和59年	第1回世界吹奏楽会議(WASBE)開催(ノルウェー)
昭和45年	組織を改め全国に8支部設置	昭和60年	第3回JBA-ABA合同会議開催(東京)
昭和46年	吹奏楽新曲開発委員会設置		規約を全面改訂「定款」成立
昭和47年	第1回レコード賞授与	昭和61年	また理事長制を改め会長制とし、部会制度も新設
	北陸支部発足(9支部となる)		創立20周年記念総会(岐阜) 吹奏楽指導者認定試験開始 環太平洋吹奏楽祭開催(ホノルル)
	中国支部にて機関誌「えこう」創刊、昭和50年6月よりJBA機関誌となる	昭和62年	第4回JBA-ABA合同会議開催(テネシー)
昭和48年	韓国吹奏楽指導者ゲストとして総会に出席	平成 元年	吹奏楽発祥の地記念碑除幕式(横浜市)
昭和49年	「JBAマーク」を制定、会員バッジ制作配布	平成 2年	演奏技能検定開始(第1回開催)
	第1回JBA-ABA合同会議開催(ハワイ)	平成 3年	吹奏楽紀要(小論文集)創刊
	日韓親善演奏会(韓国にて)	平成 5年	機関誌「えこう」の標題を改め「ウインドフォーラム」とする
昭和50年	専門委員会を設け、開発委員会、広報委員会、国際委員会、総会委員会を設置		指揮法講習会開始(第1回開催)
昭和51年	創立10周年記念総会(博多)	平成 6年	第5回JBA-ABA合同会議開催(ハワイ)
昭和52年	邦人吹奏楽曲リスト作製	平成 7年	第7回世界吹奏楽大会(WASBE)浜松市にて開催
昭和53年	第1回東南アジア吹奏楽指導者協会合同会議開催	平成 8年	創立30周年記念総会(東京)
昭和54年	JBA標準編成発表 吹奏楽譜“秋空に”を出版	平成 9年	第1回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト開催
昭和55年	第2回JBA-ABA合同会議開催(アリゾナ)	平成12年	文部省より社団法人認可(6月)
昭和55年	第2回東南アジア吹奏楽指導者協会合同会議開催	平成18年	創立40周年記念総会(東京)
昭和56年	世界吹奏楽協会設立さる(マンチェスター)、JBAも参加	平成23年	内閣総理大臣より公益社団法人認定(8月)
			公益社団法人日本吹奏楽指導者協会設立総会(東京)
		平成28年	第5回JBA-ABA合同会議開催(サン・ルイ・オビスポ)
			創立50周年記念行事(東京)

「JBA作曲賞」作品の記録

JBA作曲賞			平成18年度	「サニー・サイド・ストリート・パレード」	足 立 正
昭和43年度	冬山に逝ける若者への祈り	岩 河 三 郎	JBA下谷奨励賞		
昭和44年度	メタモルフォーゼ	浦 田 健二郎	平成19年度	Muta in Concerto	石 毛 里 佳
昭和45年度	吹奏楽のための三つの断章	桑 原 洋 明	〃	アイヌ民謡「イマンテ」の主題による変奏曲	福 島 弘 和
昭和46年度	暁と舞	池 上 敏	平成20年度	Mindscape for Wind Orchestra	高 昌 帥
〃	復帰への前奏曲	野 波 光 雄	〃	オデッセイー永遠の瞬間へー	真 島 俊 夫
昭和48年度	行進曲「青空に希望して」	河 辺 公 一	平成21年度	関下の桜樹ー吹奏楽のための	中 橋 愛 生
JBA下谷賞			〃	“The Courage”ー真の勇氣とは	小長谷 宗 一
昭和51年度	若さと英智	田 崎 勝 正	平成22年度	鈴響する時の峡谷ー吹奏楽のための交響的序曲	中 橋 愛 生
昭和52年度	行進曲「秋空に」	上 岡 洋 一	〃	「カブレーティ化モンテッキ」～「ロオナとジュリエット」その愛と死～	天 野 正 道
〃	行進曲「門出」	中 村 暁 生	平成23年度	交響詩「母なる北方の大地ーすべての生命を讃えて」	八木澤 教 司
昭和53年度	コンサート・マーチ‘77	池 上 敏	〃	I Love the 207	酒 井 格
昭和54年度	北国の旅より	山 崎 一 丸	平成24年度	Humoresque	高 昌 帥
昭和57年度	北の海岸線	上 岡 洋 一	〃	パッサカリアとトッカータ	福 島 弘 和
昭和58年度	青空の下で	福 田 啓 司	平成25年度	シンフォニックダンス	福 島 弘 和
昭和59年度	オン・ザ・キャンパス	長谷川 浩 一	〃	Prelude and Fugue	堀 田 庸 元
昭和60年度	バンド・マーチング・オン	矢 部 政 男	平成26年度	Lento Lamentosoーすべての涙のなかに、希望がある(ボーヴォワール)	真 島 俊 夫
昭和61年度	マイ・フェイバリット・マーチ	長谷川 浩 一	〃	行進曲「博奕岬の光」	酒 井 格
昭和62年度	若い風	松 尾 善 雄	平成27年度	吹奏楽のための交響的断章	福 島 弘 和
昭和63年度	ノーザン・エコー	矢 部 政 男	〃	デカンショ・ラブソディ	酒 井 格
平成4年度	サンキュー・ベリィ・マーチ	松 尾 善 雄	JBA下谷賞		
平成5年度	グリーン・ハーモニー	松 尾 善 雄	平成28年度	行進曲「南島島の光」	酒 井 格
平成6年度	トランペット・エコー	岩 下 章 二	〃	この優しく、暖かい世界 ～アンディ・カワフマンのための音楽～	清 水 大 輔
平成7年度	音楽ホールへのファンファーレ	菊 田 久 也	平成29年度	Daja～南部地方盆唄「ナニヤドラ」による～	下 田 和 輝
平成8年度	March Makers (マーチメイカーズ)	長谷川 浩 一	〃	交響詩「ヌーナ」	阿 部 勇 一
平成9年度	祝典のファンファーレ	社 樹 淳	平成30年度	静かゝの海	酒 井 格
平成10年度	「Wind for Wind」	高 橋 伸 哉	〃	選ばれし者～ヤマトノオロチ伝説によるファンタジー～	松 下 倫 士
平成11年度	平安京幻影	松 尾 善 雄	平成31年度＝令和元年度	舞踏幻想曲「ハンヤ」	福 島 弘 和
平成12年度	「セレモニアル・マーチ」	坂 井 貴 祐	〃	吹奏楽のための狂詩曲～九頭龍大神の伝説による	近 藤 礼 隆
平成13年度	Joy of Spirit	岡 田 宏	令和5年度	Flying Away	西 邑 由記子
平成14年度	ジョイフル・ポケット (私のおもちや箱)	渡 部 哲 哉	〃	フォー・スターズ・オブ・トゥモロウ	長 生 淳
平成15年度	柳絮の舞	福 島 弘 和	令和6年度	白の胎動	朴 守 賢
平成16年度	行進曲「春風にのって」	逢 坂 裕	令和7年度	恋初める茉莉花	萩 原 友 輔
平成17年度	プリージング・ソウル[息づく魂]・II	町 田 育 弥			

歴代会長

山 口 常 光 (1967～1968年)	秋 山 紀 夫 (1993～1997年)
廣 岡 淑 生 (1968～1969年)	杉 山 穎 司 (1997～2002年)
岡 田 與祖治 (1969～1970年)	藤 田 玄 播 (2002～2006年)
神 納 照 美 (1970～1975年)	遠 山 詠 一 (2006～2010年)
江 崎 真 澄 (1975～1980年)	澤 野 立次郎 (2010～2012年)
辻 井 市太郎 (1980～1985年)	牟 田 久 壽 (2012～2016年)
春 日 學 (1985～1993年)	岡 田 知 之 (2016～2022年)

本部役員

顧 問	下 谷 隆 之
会 長	山 本 真理子
副 会 長	山 田 正 俊
〃	大 澤 和 幸
常務理事	黒 尾 実
〃	馬 場 正 英
〃	三 浦 徹
理 事	黒 川 圭 一
〃	小 林 正 一
〃	鈴 木 英 史
〃	萩 原 稔 浩
監 事	伊 藤 美喜男
〃	葦 澤 弘 志

支 部 長

北海道支部	宍 戸 雄 一
東北支部	荒 井 富 雄
関東甲信越支部	田 中 旭
東海支部	土 屋 史 人
北陸支部	太 田 毅
関西支部	吉 永 陽 一
中国支部	原 田 和 典
四国支部	高 橋 貞 道
九州支部	早 川 英 一